

【新型コロナウイルス感染症の影響による入学者選抜について】
今後の感染状況によっては、入学者選抜の日程や選抜方法等に変更が生じる
可能性があります。変更が生じた場合、ホームページ等でお知らせします。

令和5年度（2023年度）

10月入学

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程学生募集要項

一般選抜

特別選抜（社会人）

特別選抜（外国人）

【連絡先】

〒670-0092

姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課

電話 (079) 292-1513

FAX (079) 292-1530

問い合わせ受付時間 平日9:00～17:00

目 次

ページ

I. 令和5年度10月入学募集要項	1～4
-------------------	-----

- 1 募集人員
- 2 出願資格及び条件
- 3 願書受付期間
- 4 出願手続
- 5 選抜方法
- 6 学力試験・口述試験日程等
- 7 合格発表
- 8 入学料及び授業料
- 9 入学手続
- 10 注意事項
- 11 不測の事態について

(参考)

- ・ 出願手続に必要な書類等一覧
- ・ 出願資格認定について

II. 環境人間学研究科（博士前期課程）教員表	5～8
-------------------------	-----

【出願手続に関する提出書類等】

- | | |
|-------------------|-------|
| ① 入学願書 | (様式1) |
| ② 博士前期課程における研究計画書 | (様式2) |
| ③ 承諾書（一般・外国人） | (様式3) |
| ④ 承諾書(社会人) | (様式4) |
| ⑤ 出願資格認定審査申請書 | (様式5) |
| ⑥ 研究・活動報告書（その1） | (様式6) |
| ⑦ 研究・活動報告書（その2） | (様式7) |
| ⑧ 研究・活動内容確認書 | (様式8) |

【その他】

長期履修制度について

※ アクセス及び建物配置図

環境人間学研究科のアドミッションポリシー

環境人間学研究科は、環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じて、新たな環境創造を担う高度な識見、研究力をもった人材の育成を教育理念としています。この理念の実現に向けて、人間学の基本に立ちながら、社会のニーズに応える高度な専門知識と問題発見能力を持ち、かつ環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる能力を有する専門職業人の養成を目指しています。

そこで環境人間学研究科では、次のような学生を求めています。

- 1) 環境に関する諸問題に関心を持ち、専門職業人としての基礎的な学問を学び、研究を行う意欲がある人
- 2) 環境に関する諸問題に対して、より広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって、体系的な問題発見・分析能力、および技術を身につけることを目指している人
- 3) 環境に関する諸問題に対応する方策を具体的に考察し、知的好奇心を持って積極的・活動的に取り組む行動力がある人
- 4) 環境と人間との相互作用として、人間の健康や文化の多様性を探求し、環境共生社会の実現に向けた具体的な方策を考えようとしている人

I. 令和5年度大学院環境人間学研究科博士前期課程の学生を次のとおり募集する。

(令和5年10月入学)

	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (外国人)
1 募集人員	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名
2 出願資格及び条件	<p>(1)出願資格 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>① 大学を卒業した者及び2023年9月30日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑧ 文部科学大臣の指定した者（2023年9月30日までに該当する見込みの者を含む。）</p> <p>⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者</p> <p>⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者</p> <p>⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までに22歳に達した者</p>	<p>(1)出願資格 本学環境人間学研究科指導教員の推薦があった者で、2023年10月1現在において24歳以上で2年以上の勤務経験又は社会経験を有し、その経験を大学院での研究水準において深化させることを目指す者で、次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>① 大学を卒業した者及び2023年9月30日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑧ 文部科学大臣の指定した者（2023年9月30日までに該当する見込みの者を含む。）</p> <p>⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者</p> <p>⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者</p> <p>⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者</p>	<p>(1)出願資格 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当し、入学後「留学」の在留資格が取得できる者、かつ、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N2以上、または独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」200点以上を取得した者</p> <p>① 大学を卒業した者及び2023年9月30日までに卒業見込みの者</p> <p>② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2023年9月30日までに授与される見込みの者</p> <p>⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2023年9月30日までに修了見込みの者</p> <p>⑧ 文部科学大臣の指定した者（2023年9月30日までに該当する見込みの者を含む。）</p> <p>⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者</p> <p>⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者</p> <p>⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認められた者</p> <p>⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時までに22歳に達した者</p>

	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
1 募集人員	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名
2 出願資格及び条件	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。 *この試験は外国人学生、帰国子女を含む。	社会人として出願する者はすべて出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。 [日本留学試験に関する指定条件] 2022年度の第1回・第2回のいずれか1回の受験をしていること。（受験科目は「日本語」）
	(2) 出願条件 出願者は、 希望する研究指導教員とあらかじめ協議の上、出願 すること。日本に在住しない外国人が出願するにあたっては、諸々の手続（出願、受験、入学、入国等）について、希望する研究指導教員と入念に事前打ち合わせを行うこと。		
3 願書受付期間	令和5年7月24日（月）から令和5年8月3日（木）まで（必着） 受付時間：平日の午前9時30分から午後4時まで。土曜・日曜・祝日は受け付けない。		
4 出願手続	下記の書類等に入学考査料30,000円（ゆうちょ銀行又は郵便局が令和5年7月1日以降に振出した「普通為替証書」によること。ただし、証書には何も記入しないこと）を添えて兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課に提出する。		
	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT(Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。)のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和2年8月3日～令和5年8月3日までのもの。） ⑤ 外国人留学生は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2）その他あれば研究業績論文 ③ 英文による研究計画書（様式2に準じたもの） ④ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式4） ⑤ 外国人は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT(Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。)のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和2年8月3日～令和5年8月3日までのもの。） ⑤ 日本語能力認定書のコピー又は日本留学試験成績証明書のコピー
(共通) ・出身大学の卒業証明書（卒業見込証明書）又は学位授与証明書及び成績証明書（和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること） ・受験票返送用封筒（長形3号封筒に344円分切手を貼付。ただし、願書提出期限の翌日以降に学務課に受験票を取りに来る者は不要）（封筒には住所、氏名を記載し、「速達」と朱書きすること） *事前審査の際に提出した書類は提出しなくてよい。			
5 選抜方法	入学者の選抜は、学力試験、口述試験及び出願書類を総合評価して行う。英語においては最低基準点を設けることがある。		
6 学力試験、口述試験日程等	(1) 日時・試験科目 令和5年8月24日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00～11:30 ・口述試験 13:00～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験の代わりに外部試験を使用する。TOEIC又はTOEFLのスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。 *受験生はあらかじめ受験しておくこと。	(1) 日時・試験科目 令和5年8月24日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00～11:30 ・口述試験 13:00～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験は課さない。	(1) 日時・試験科目 令和5年8月24日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00～11:30 ・口述試験 13:00～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験の代わりに外部試験を使用する。TOEIC又はTOEFLのスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。 *受験生はあらかじめ受験しておくこと。
	(2) 学力試験及び口述試験会場 姫路市新在家本町1丁目1番12号 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス （詳細については、当日、本学キャンパス内に掲示する）		
7 合格発表	令和5年8月31日（木）午後2時 兵庫県立大学環境人間学部・研究科のホームページ（ http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html ）に掲示するとともに、合格者には郵便により通知する。 なお、電話による問い合わせには一切応じない。		

8 入学料及び授業料（令和5年4月1日現在）

区分		納入時期	入学手続時	令和5年10月	令和6年5月	合計
入学料	県内		282,000円			282,000円
	県外		423,000円			423,000円
授業料				267,900円	267,900円	535,800円
諸経費	本大学卒業生		24,000円			24,000円
	他大学卒業生		66,000円			66,000円

- (注) (1) 兵庫県公立大学法人授業料等に関する規程が改正された場合は、その金額による。
- (2) 上記のうち、県内はア～エのいずれかに該当する者で、県外はそれ以外の者
- ア.入学の日（令和5年10月1日）の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者
- イ.配偶者又は1親等の親族が、入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者
- ウ.入学する者が、本学学部から引き続き大学院に入学する場合
- エ.特別選抜（外国人）入試により入学する場合
- (3) 入学料及び諸経費は令和5年9月に納付

9 入学手続

手続期間 令和5年9月上旬

入学手続書類は、令和5年9月初旬に郵送する予定

10 注意事項

- 出願書類等を郵送する場合は、必ず簡易書留とすること。（締切当日必着）
送付先：〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課
- 納付された入学考査料は、いかなる理由があろうと返還しない。
- 授業はすべて日本語で行われるので、外国人学生で日本語の能力が十分でない者は、日本語の予備教育を受けておくことが望ましい。外国人学生は、在学中の学費・生活費等について、自ら責任を持って準備する必要がある。
- 身体に障がいがある者との事前協議
身体に障がいがある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、願書受付期間前の令和5年6月30日（金）午後4時までに申し出ること。協議申請書（健康診断書等必要書類添付）を提出し、必要な場合、本学において志願者又はその立場を代弁しうる関係者等との面談を行う。
- 一般選抜の出願資格⑨～⑫、特別選抜（外国人）の出願資格⑨～⑫に該当する者及び特別選抜（社会人）が出願する場合は、出願に先立ち事前審査を実施する。4ページを読み、必要書類の様式は学務課に問い合わせること。
- 職業を有している等の事情により、標準就業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、長期履修制度を設けている。希望する者は「長期履修制度について」を読み、期日までに申請手続きを行うこと。
- 入学料については、令和5年9月の別途指定する日までに納入すること。
- 納付した入学料は、いかなる理由があろうと返還しない。

11 不測の事態（交通機関の乱れ、災害発生等）について

- 試験当日、台風や地震等不測の事態により交通機関が途絶したり遅延した場合、状況によっては試験時間を繰り下げたり、試験日を変更するなどの措置をとることがある。
- そのような事態が発生したときは、午前8時以降環境人間学部のホームページ上に掲載するので確認すること。（<http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>）
- 問い合わせは兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課（TEL 079-292-1513）まで

参考 出願手続に必要な書類等一覧

	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
(1) 入学願書	○ (様式1)	○ (様式1)	○ (様式1)
(2) 研究計画書	○ (様式2)	○ (様式2)	○ (様式2)
(3) 研究計画書（英文）	—	○ (様式2に準じたもの)	—
(4) 研究指導教員の承諾書	○ (様式3)	○ (様式4) ※出願資格認定審査で提出	○ (様式3)
(5) 住民票	外国人	外国人	—
(6) TOEIC又はTOEFL-iBT(Home editionを除く。)成績証明書のコピー	○	—	○
(7) 日本語能力認定書のコピー又は日本留学試験成績証明書のコピー	—	—	○
(8) 出身大学の卒業(見込)証明書及び成績証明書	○	○	○

出願資格認定について

(1) 事前審査

一般選抜の出願資格⑨～⑫、特別選抜（外国人）の出願資格⑨～⑫に該当する者及び特別選抜（社会人）が出願する場合は、出願に先立ち出願資格認定審査を実施する。

下記の書類を希望する研究指導教員に提出し、あらかじめ協議し審査を受けた上で、令和5年6月28（水）～7月7日（金）（土・日・祝日を除く）までに、姫路環境人間キャンパス学務課まで提出すること。郵送の場合は、簡易書留郵便（締切当日必着）とし、封筒に「博士前期課程出願資格事前審査書類在中」と朱書きすること。

- ・ 出願資格認定審査申請書（本学所定の様式5）
- ・ 本学環境人間学研究科指導教員の承諾書（社会人学生のみ、本学所定の様式4）
- ・ 卒業証明書（最終出身学校）※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 成績証明書（最終出身学校）※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 研究・活動報告書（その1）（本学所定の様式6）
- ・ 研究・活動報告書（その2）（本学所定の様式7）
- ・ 研究・活動内容確認書（本学所定の様式8）
- ・ 審査結果通知用封筒（長形3号封筒に速達郵便用切手344円分を貼り、返送先の住所・氏名を記入し、「速達」と朱書きしたもの）

(2) 出願手続

出願資格認定の審査結果は文書で令和5年7月14日（金）までに本人あて通知する。認定された者は、願書受付期間中に所定の書類を整え提出し、出願手続をとること。（2ページ参照）

II. 環境人間学研究科(博士前期課程)教員表

*印は、研究指導教員

(令和5年4月1日現在)

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
I 人間環境部門	* 有満 秀幸	微生物学	食の安全性を脅かすヒトや家畜の病原菌の病原因子に関する研究、微生物の有効利用に関する研究	生命環境特論
	* 石倉 和佳	表象文化学	イギリスを中心とした風景論、庭園論、および環境と関連する文化表象に関する研究	近代表象文化特論
	石坂 朱里	食品機能学	野菜や果物に含まれるフラボノイドの生体内動態と生理機能性に関する研究	食品科学特論
	* 伊藤 美紀子	臨床栄養学、代謝栄養学	栄養が強く関わる疾患の予防・改善を目指した栄養療法のエビデンス探索。特に腎疾患、サルコペニアに関する研究。はりま姫路総合医療センターとの共同研究も実施予定。	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 乾 美紀	多文化共生教育、マイノリティの教育	文化的に多様な背景を持つマイノリティの子どもたちの教育問題と教育支援に関する研究	多文化共生教育特論
	* 井上 靖子	臨床心理学、分析心理学	心の諸問題に対する深層心理学的分析及びイメージ、からだ、想像力を手がかりとした心理臨床実践研究。	臨床心理学特論
	* 内田 勇人	小児保健学、老年学	子どもの発達と健康、若年者・高齢者に対するヘルスプロモーションに関する研究	健康発達特論
	* 尾崎 公子	教育学	学校づくりとまちづくりの両観点を踏まえた地域教育政策に関する研究	地域教育政策特論
	* 加藤 陽二	生化学、食品化学	老化や疾病に深く関連した「活性酸素」による生体傷害の機構解明とその予防	生命環境特論
	* 金子 一郎	分子制御栄養学、ビタミン学	各ライフステージや生活環境における栄養素の消化吸収、代謝、排泄の変化と分子メカニズムに関する研究。健康長寿のための栄養学研究。	生命環境特論
	* 木本 幸憲	言語学	フィリピン少数言語の現地調査と、言語における認知、相互行為、文化の役割についての研究	言語学特論
	喜友名 菜織	民法学、家族法	日独の親子法、とりわけ未成年養子制度に関する研究	家族法特論
	小村 智美	微生物学、免疫栄養学	モデル生物を用いた抗老化作用に寄与する食品因子の探索と機序解明	生命環境特論
	* 坂本 薫	食物学、調理学	調理・食品加工における食味向上に関する研究、および食生活・食文化にかかわる調査研究	食品科学特論、臨床食環境栄養特論
	島田 良子	調理学、栄養生理学	食品の物性・嗜好性に関する研究、難消化性成分の機能性に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	* 高橋 綾子	アメリカ文学、アメリカ文化、環境文学	アメリカ文学・文化における環境と人間に関わる研究、アメリカ現代詩研究、環境文学研究	アメリカ研究特論
* 竹内 和雄	生徒指導	学校における具体的な生徒指導事案について、実践をベースに考察	生徒指導実践特論	
田中 更沙	臨床栄養学、代謝栄養学	ミネラルが生体に及ぼす影響の研究、特にリフィーディングシンドロームに関する研究	実践栄養学特論	

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
I 人間環境部門	* 寺西 雅之	文体論、英語教育・学習論	文体論を活用した文学・言語・コミュニケーション研究及び英語教育	環境英語表現特別演習
	* 鄭 成	歴史学・異文化交流	現代中国の対外交流史、知識人の精神史	比較言語・文化特論
	* 中出 麻紀子	公衆栄養学	若年成人の食習慣に関する調査研究	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 永井 成美	栄養教育、栄養生理学	食教育プログラム・教材の開発と評価に関する研究 食事と健康に関する栄養生理学的研究	ライフステージ栄養学特論
	柳楽 有里	アメリカ文学、アメリカ文化	アメリカ文学作品に描かれる人種・ジェンダー・階級から読み解くアメリカ文化の研究	英語圏文化研究特論
	西村 洋平	哲学・倫理学	西洋古代の哲学・倫理学の研究と、それに基づいて現代の社会問題や人間のあり方について考察	人間学特論
	* 野村 健	生物物理学、運動生理学	機械受容チャネルのゲーティング機構に関する研究 体力測定機器の開発及びトレーニング効果に関する研究	トレーニング特論
	半澤 史聡	栄養生化学、時間栄養学	摂食タイミングと末梢組織の時計・代謝に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	保坂 裕子	生涯発達心理学、文化歴史的活動理論	子どもの発達に関わる活動システムに関する研究	生涯発達心理学特論
	* 村上 明	食品機能学	植物由来の生理機能性成分（ファイトケミカル）の作用分子メカニズムに関する研究	食品科学特論
	* 森 寿仁	運動生理学、トレーニング科学	子ども～アスリート～高齢者における効果的な健康・スポーツトレーニング方法の開発	生涯スポーツ教育特論
	山口 裕毅	教育哲学・教育思想史	教育の倫理性に関する研究、英国における教育実践に関する調査研究	教育原論特論
	* 吉田 優	臨床栄養学、代謝栄養学	オミックス解析を用いた炎症性疾患、代謝性疾患の病態解明ならびに新規治療法の確立	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 吉村 美紀	食品プロセス科学、食品物性	食品の物性と嗜好性、食品のテクスチャー・コントロール、高齢者用食品と増粘多糖類のレオロジーの研究	食品科学特論、臨床食環境栄養特論
II 社会環境部門	* 井関 崇博	社会学	環境・組織・文化のプロモーションにおけるメディア制作・運営・戦略に関する研究	環境社会学特論
	* 伊藤 雅之	生物地球化学	陸域の水圏に関わる物質循環機構について生物地球化学的な観点から研究する	水圏環境学特論
	* 宇高 雄志	住宅計画	アジアにおける人間居住と生活空間のデザイン	住宅計画特論
	* 宇野 康司	地質学	中生代以降の東アジアにおける地球環境変遷	環境動態解析学特論

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
II 社会環境部門	* 太田 尚孝	都市計画学	わが国の持続可能な都市の発展に資する計画制度や計画技術、プランナーのあり方に関する研究	都市計画特論
	* 大橋 瑞江	森林生態学	森林生態系を構成する生物・非生物要因の相互作用、人間活動と森林の環境形成機能との関わりを研究する	森林生態学特論
	* 奥 勇一郎	応用気象学	温暖化気候における台風等の極端気象およびその影響評価に関する研究、衛星リモートセンシングによるヒートアイランド現象に関する観測的研究	大気科学特論
	* 糟屋 美千子	言語社会学、メディア・ディスクコース分析	メディア・ディスクコースが現代社会の維持・変容に与える影響、及びその分析手法についての研究	言語社会分析特論
	* 木村 敏文	画像工学、生態画像解析	昆虫を対象とした行動解析支援プログラム開発	環境画像解析特論
	* 木村 玲欧	防災心理学、防災教育学	災害・防災をテーマにした、安全・安心な社会環境を実現するための心理・行動、社会システム研究	防災心理・行動科学特論
	荘所 直哉	建築構造学、木質構造	木質構造の耐震性に関する実験的研究ならびに耐震設計法の構築に向けた研究	建築防災学特論
	* 杉山 武志	人文地理学	地域コミュニティの創造に向けた社会経済地理学的研究	地域コミュニティ特論
	* 竹端 寛	福祉社会学	福祉現場における脱施設化や脱管理・支配、権利擁護とエンパワメント、持続可能な地域福祉のあり方、およびオープンダイアログや対話的文化に関する研究	福祉社会学特論
	* 土川 忠浩	建築環境学	建築・都市空間における環境と健康・快適性、建築材料の熱・湿気的性能と省エネルギー、地域・都市気候と住宅・住まい方の関係、住環境教育に関する研究	住環境学特論
	* 中桐 齊之	生態情報学	モデリングとシミュレーションによる生物環境問題や社会問題に関する研究、携帯端末によるユーザインターフェースの研究	生態情報学特論
	* 中嶋 一憲	環境経済学	環境経済モデルによる政策評価のためのシミュレーション分析、および環境評価手法による環境の経済的価値評価に関する研究	環境経済・政策特論
	増原 直樹	環境政策論	地方自治体における環境関連条例・計画の策定プロセス分析、およびSDGsをはじめとする指標を用いた資源ネクサス（連環）解析に関する研究	環境経済・政策特論
	* 水上 優	建築論・建築設計学	建築設計行為における思索と制作の連関に関する建築論的研究	建築・インテリア設計特論
	* 三田村 哲哉	建築史・意匠学	建築史において高評を得た秀作を通して、建築美を生み出す造形原理を解明する研究	建築意匠特論
* 三宅 康成	農村計画学・農業土木学	農山村地域における農村計画手法の開発・提案、および土地利用、都市・農村交流に関する研究	農村計画特論	
* 安枝 英俊	建築計画学	少子高齢社会・ストック型社会・環境配慮型社会に対応した建築計画に関する研究	建築計画特論	
III	* 赤澤 宏樹	緑地計画学・造園学	緑環境や暮らしの表出を中心とした景観づくり、公園を中心としたまちづくりを通じた、人と自然が共生する環境創出の実践・研究	ランドスケープ計画特論

部門	教員名	専門分野	研究内容	担当科目名
Ⅲ 共生 博物 部門	* 池田 忠広	古爬虫両棲類学	小型爬虫両生類（カエル・トカゲ・ヘビ）の現生種、ならびに化石を対象とした骨学及び分類学的研究	古生物学特論
	* 石田 弘明	植生学、保全生態学	森林群落、特に人間との関わりの深い照葉樹林、ブナ林、里山林の生物多様性とその保全・再生にする研究	植生学特別演習
	* 大平 和弘	環境計画学・造園学	人と自然がうまく調和した地域固有の風景を保全・創成するための、景観づくりやまちづくりの計画・マネジメントに関する実践と研究	ランドスケープ保全特論
	* 栗山 武夫	保全生態学、景観生態学	哺乳類（おもにイノシシ・アライグマ）の分布拡大や在来生態系への影響に関する研究	個体群生態学特論・野生動物管理フィールド特別演習
	* 黒田 有寿茂	植物生態学、植生学、保全生態学	植物の生活史特性や生育環境特性、植生の組成・構造とその多様性の要因、生物多様性に配慮した植物の保全や植生の管理・再生手法などについて研究する。	植物生態学特論
	* 高木 俊	個体群生態学、群集生態学	陸上の動物（おもに哺乳類・節足動物）を対象に、個体数や分布の時空間的変動および生物間の相互作用のパターンとプロセスについて研究する。	個体群生態学特論
	* 高田 知紀	合意形成学、地域計画論、風土論	社会的合意形成の理論と技術、市民プロジェクトの推進とそのマネジメント手法、風土性に根ざした地域計画および地域マネジメント	国土空間学特論
	* 高橋 鉄美	魚類学、進化生態学	淡水魚類を中心に、その生態や形態の多様性を進化学的な視点から研究する。また、集団遺伝の手法を用いた保全に関する研究も行う。	進化生態学特論
	* 高野 温子	植物分類学、送粉生態学、	分子系統学や集団遺伝学の成果に基づく被子植物の分類体系の再整理や再構築、また虫媒花を中心とした送粉生態学的研究を行う。	植物分類学特論
	* 中濱 直之	保全遺伝学、保全生態学、系統地理学、群集生態学	絶滅危惧種の減少要因、また遺伝情報に配慮した保全手法について、フィールド調査や遺伝解析などの手法から研究する。	分子生態学特論
	* 廣瀬 孝太郎	地質学、古生物学、第四紀層序学、環境動態解析	地層中の微化石群集や化学組成を分析し、自然・人為の環境変動とそのメカニズムを明らかにする。	地球環境進化学特論
	* 藤木 大介	森林生態学	森林生態系管理に関する研究。特に、ニホンジカが森林生態系に及ぼしている影響の解明と森林生態系保全のための適切な管理のあり方についての研究。	保全生態学特論
	* 藤本 真里	都市計画学	地域コミュニティの活性化をめざしたマネジメントの方法論や手法について、公園や博物館など公共施設、地域における実践に基づき研究する。	まちづくり特論
	* 森光 由樹	保全遺伝学 野生動物医学	遺伝的多様性を把握するために必要な、サンプルの収集、DNA分析および解析、遺伝的多様性回復の方法など実践的な手法について研究する。	保全生態学特論
	* 山崎 健史	系統分類学、生物地理学	主に節足動物を対象に、形態学的な観察、遺伝解析などを行い、種の多様性を整理し、多様性が創出され維持されてきたメカニズムを研究する。	種生物学特論
	* 山端 直人	農村計画学 農業政策学 アクションリサーチ論	獣害や放棄地増加などの農村問題を軽減できる社会モデルの育成や、地域が主体的に対策を持続できる仕組みづくりを研究する。	野生動物管理フィールド特別演習、ワイルドライフマネジメント特論
* 山田 量崇	系統分類学、昆虫学、多様性生物学	昆虫を対象とした分類学的研究。比較形態観察に軸足を置き、形や機能を理解した上で、系統や進化の観点から研究する。	基礎昆虫学特論	
* 横山 真弓	野生動物管理学	野生動物の健全な個体群を維持し、人との軋轢を低減するための野生動物の保全と管理を実施するための基盤となるモニタリング手法について演習する。	ワイルドライフマネジメント特論、野生動物管理フィールド特別演習	
頼末 武史	海洋生態学	海産無脊椎動物の幼生分散・着底機構に関する研究。海産外来種の分布拡大機構に関する研究。	海洋生物生態学特論	

長期履修制度について

(1) 趣 旨

この制度は、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程 2 年、博士後期課程 3 年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象とし、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができる。

(2) 対象となる学生

長期履修を申請することができる学生は、本学に在学する者及び入学する予定の者のうち、次のいずれかに該当する者である。

ア 定まった職業を有する者（自営業及びフルタイムの有職者と同等の勤務状況にあると認められる臨時雇用を含む）

イ 家事、育児、介護等を行う必要のある者

ウ 障がいのある者

エ その他長期履修が必要となる特別な理由があると認められる者

(3) 申請手続

長期履修を希望する学生は、入学手続後、指導教員に相談の上、次のア、イ、ウの書類を、姫路環境人間キャンパス学務課へ提出すること。

ア 長期履修許可願（様式第 1 号）（添付省略）

イ 長期履修計画書（様式第 2 号）（添付省略）

ウ 証明書類

① 会社等に勤務する者は、所属長の在職証明書

② 家事、育児、介護等に従事している者は、家事、育児、介護等に従事していることの証明書又は申立書

③ 障がいがあることを証明するもの

④ 本人の健康状態を理由として申請する者は、医師の診断書

⑤ その他研究科長が提出を求める書類

(4) 長期履修を認める期間

長期履修を認める期間（以下「長期履修期間」という）は、博士前期課程にあつては 3 年以上 4 年まで、博士後期課程にあつては 4 年以上 6 年までであつて、その期間は 1 年単位である。

(5) 長期履修期間の変更

長期履修を許可された者（以下「長期履修者」という）が対象に該当しなくなった場合は、次年度から履修期間を当該課程の修業年限等に変更することを申し出ること。

長期履修期間の短縮は、3 月修了予定者については、短縮により修了することとなる年度の 11 月 1 日から 11 月末日まで、また、9 月修了予定者については、短縮により修了することとなる年度の 5 月 1 日から 5 月末日までに、長期履修期間の延長は、4 月入学者については、延長により修了することとなる年度の 11 月 1 日から 11 月末日まで、10 月入学者については、延長により修了することとなる年度の 5 月 1 日から 5 月末日まで（いずれも、最終日が休日の場合、その翌日）に長期履修期間変更申請書（様式第 3 号）を学務課に提出すること。長期履修期間の変更は、当該課程において、1 回限りである。

なお、長期履修期間を短縮する場合は、短縮が認められるときに短縮に係る授業料の差額が必要となる。

(6) 長期履修制度に係る授業料

兵庫県立大学授業料等に関する規程で定められた大学の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修期間の年数で除した額とする。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合は再計算される。

$$\text{長期履修者の年間の授業料} = \frac{\text{通常の授業料} \times \text{標準修業年限}}{\text{長期履修期間の年数}}$$

博士前期課程

(樣式)

環境人間学専攻		受験番号	※				
フリガナ				性別	1 男 2 女	生年月日	S 年 月 日 H
氏名							
出願資格	出身学校	大学	学部	学科			
		年 月 卒業 ・ 卒業見込み					
現住所		〒 - TEL () - 本人携帯 () -					
緊急連絡先	住所	〒 - TEL () -				※ 入学審査料 領収印	
	氏名	続柄					

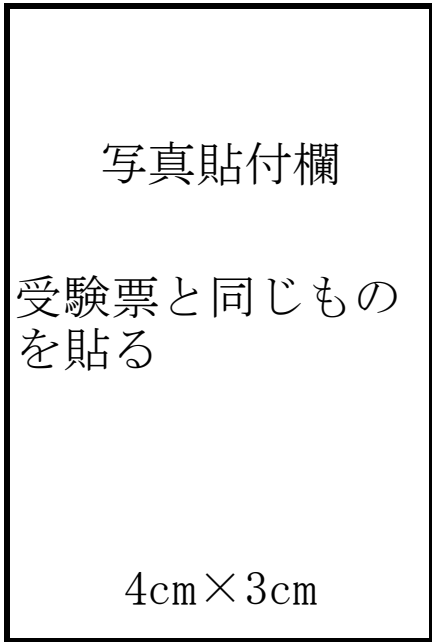
※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 一般選抜

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	



入学審査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

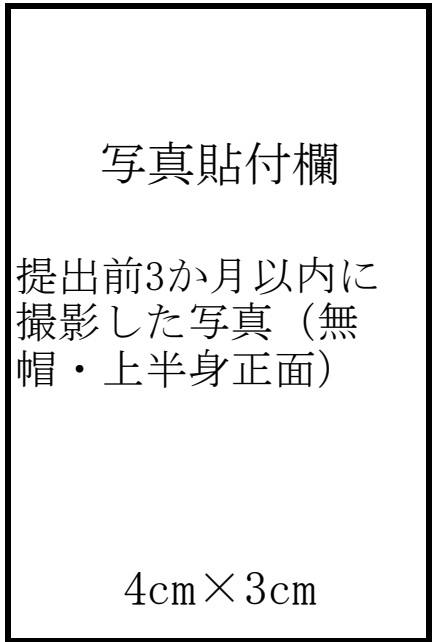
令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 一般選抜

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

- ・ 試験日
令和5年8月24日 (木)
- ・ 試験場所
兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス



入学審査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

注意

- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
- 2 ※印のところは記入しないこと
- 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
- 4 学歴は高等学校入学時から記入すること
- 5 この用紙は切り離さないこと

環境人間学専攻		受験番号	※				
フリガナ				性別	1 男 2 女	生年月日	S 年 月 日 H
氏名							
出願資格	出身学校	大学 学部 学科 年 月 卒業・卒業見込み					
現住所		〒 - TEL () - 本人携帯 () -					
緊急連絡先	住所	〒 - TEL () - ※				入学考査料 領収印	
	氏名	続柄					

※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 特別選抜(社会人)

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

写真貼付欄

受験票と同じものを貼る

4cm×3cm

入学考査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 特別選抜(社会人)

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

- ・ 試験日
令和5年8月24日(木)
- ・ 試験場所
兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス

写真貼付欄

提出前3か月以内に撮影した写真(無帽・上半身正面)

4cm×3cm

入学考査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

注意

- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
- 2 ※印のところは記入しないこと
- 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
- 4 学歴は高等学校入学時から記入すること
- 5 この用紙は切り離さないこと

(様式1-外国人)

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士前期課程 10月入学 特別選抜(外国人) 入学願書

環境人間学専攻		受験番号	※				
フリガナ				性別	1 男 2 女	生年月日	S 年 月 日
氏名							
出願資格	出身学校	大学 学部 学科 年 月 卒業 ・ 卒業見込み					
現住所		〒 - TEL () - 本人携帯 () -					
緊急連絡先	住所	〒 - TEL () -				※ 入学審査料 領収印	
	氏名	続柄					

※欄は、記入不要。裏面にも記入のこと。

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 特別選抜(外国人)

写真票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

写真貼付欄

受験票と同じものを貼る

4cm×3cm

入学審査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

令和5年度兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 10月入学 特別選抜(外国人)

受験票

受験番号	
※	
フリガナ	
氏名	
生年月日	年 月 日生
出身学校	

- ・ 試験日
令和5年8月24日(木)
- ・ 試験場所
兵庫県立大学
姫路環境人間キャンパス

写真貼付欄

提出前3か月以内に撮影した写真(無帽・上半身正面)

4cm×3cm

入学審査料
領収印

兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科

(裏面)

学歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
職歴	年 月
	年 月
	年 月
	年 月
	年 月

注意

- 1 緊急連絡先の欄は、本人に必ず連絡できるものを記入すること
- 2 ※印のところは記入しないこと
- 3 黒のペン又はボールペンで丁寧に記入すること
- 4 学歴は高等学校入学時から記入すること
- 5 この用紙は切り離さないこと

共通

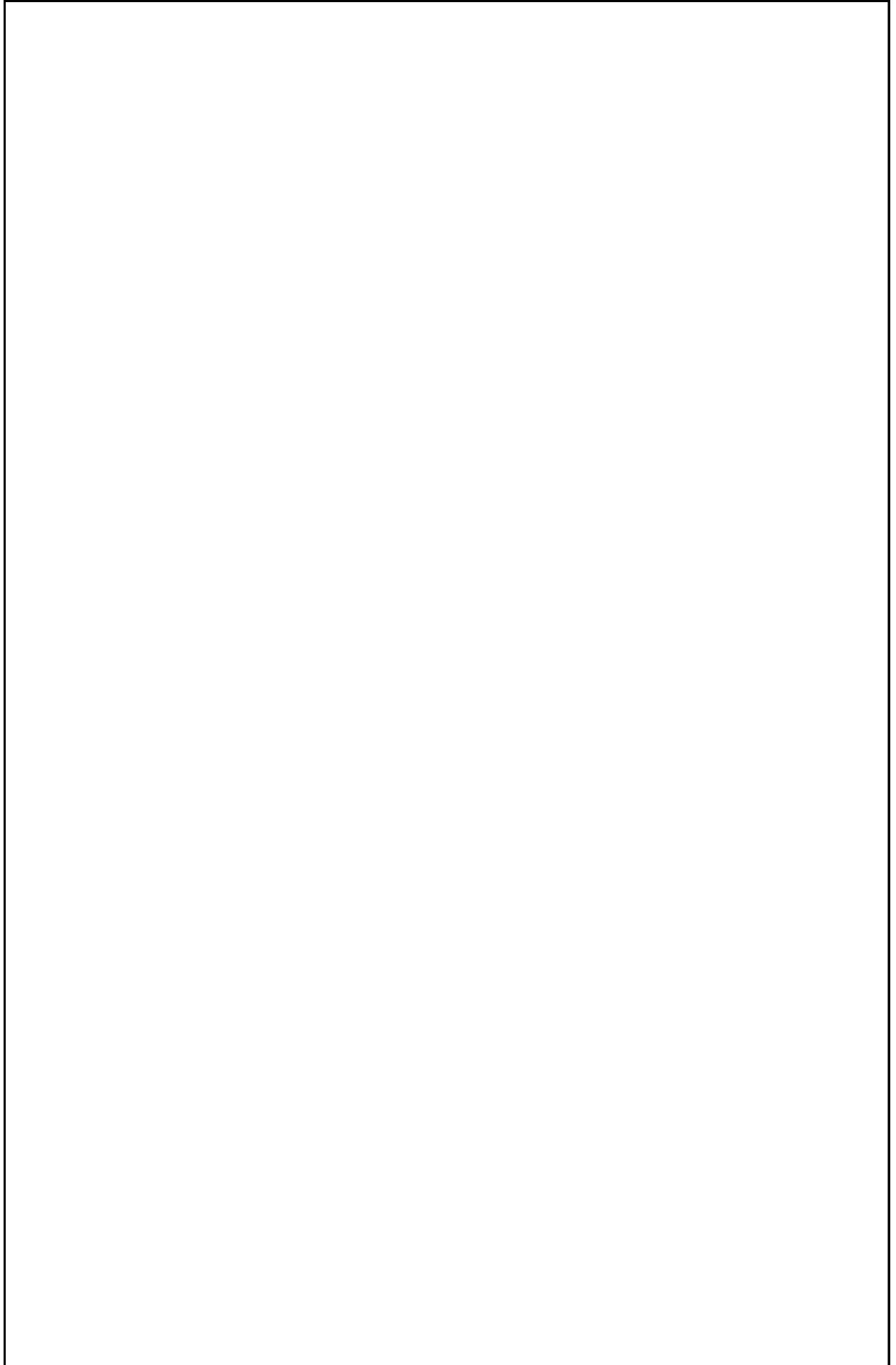
博士前期課程における研究計画書

氏名

研究題目

研究計画（これまでの研究内容、成果及び大学院での研究計画を2,000字程度で記述する。なお、文中に図、表、写真を含めてもよいが、白黒印刷で鮮明に見えるように注意すること。）

(裏へ続く)



一般・外国人

承諾書

志願者氏名 _____

上記の者が本学大学院に入学した場合、その研究指導を行うことを承諾する。

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 環境人間学専攻

研究指導教員

印

認定（社会人）

承諾書

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院

環境人間学研究科長 様

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

研究指導教員

職・氏名

印

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士前期課程入学（令和5年10月入学）志願者として、下記の者を推薦し、入学した場合、その研究指導を行うことを承諾する。

志願者	フリガナ 氏名 (生年月日)	昭和・平成 年 月 日生
	所属・職名	

(志願者の研究分野、素質、将来の希望等、ご意見を下欄にご記入ください。)

--

認定

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
出願資格認定審査申請書

令和 年 月 日

環境人間学研究科長 様

氏名 印

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士前期課程の出願資格認定審査を受けたいので、必要書類を添えて申請します。

申請根拠 (1ページ「出願資格及び条件」から該当する項目を選んでください。)

記載欄

--

(令和5年10月入学)

フリガナ 氏名 (生年月日 年 月 日)	現職	
	現住所	
最終卒業学校名		年 月 卒業
略歴 (学歴・職歴・学会及び社会における活動)		
学歴 (高等学校卒業以降)		
		年 月 卒業
		年 月 入学
		年 月 卒業
職歴		
		年 月 入社
		年 月
		年 月
		年 月
		年 月
社会及び学会における活動 (所属学会名等)		
賞 罰		

認定

研究・活動報告書（その1）

志望分野		フリガナ 氏 名	
------	--	-------------	--

出願資格認定審査申告書の申請根拠に関連した研究・活動について記すこと。

--

認 定

研究・活動報告書（その2）

著書・学术论文等の 題名（注）	著書名 又は発表者名	発行所、発表雑誌 又は発表学会等の名称	巻、号、頁（年） 又は発表の年月

（注）学会雑誌、学会発表（研究会）、社内報告/技術レポート、特許/実用新案、業界紙（商業誌）、製品報告（製品紹介）等があれば記入してください。

認定

研究・活動内容確認書

申請者氏名

上記の者の研究・活動内容について、確認しました。

令和 年 月 日

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

博士前期課程 環境人間学専攻

研究指導教員

印

アクセス及び建物配置図

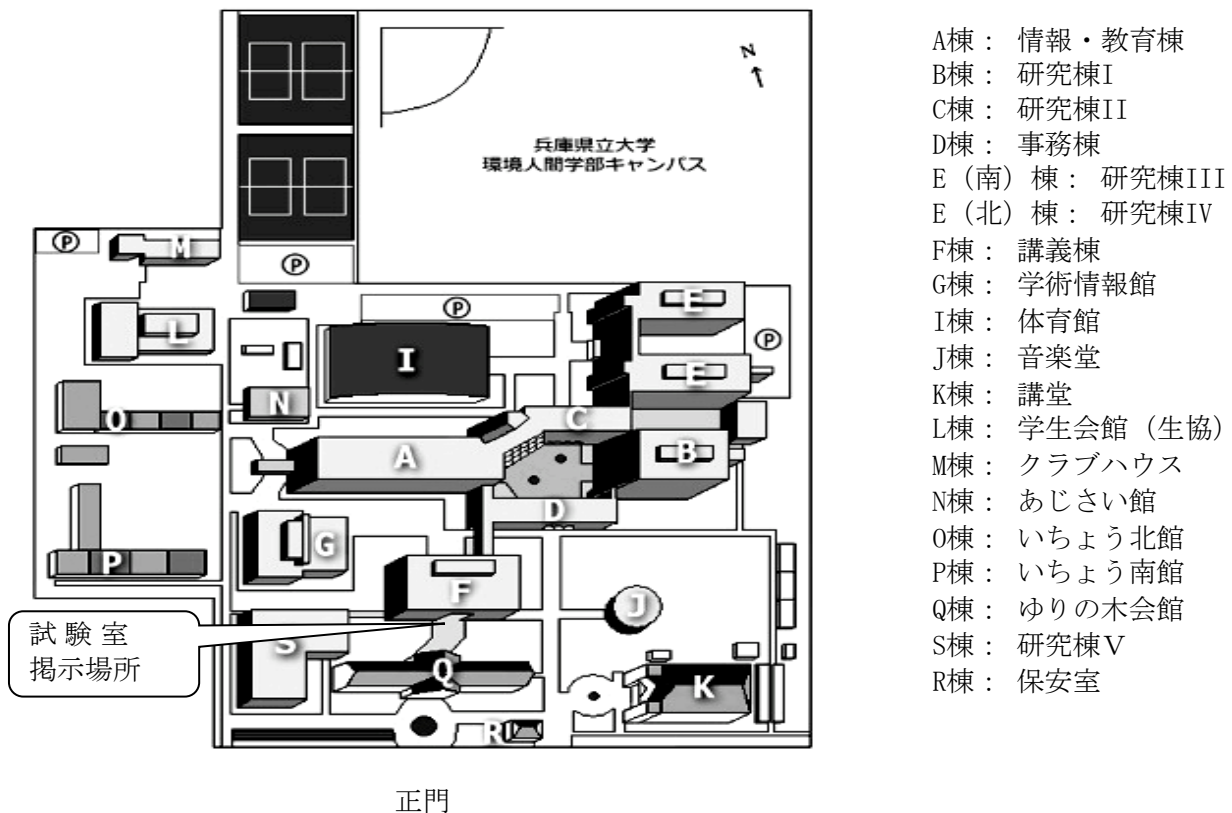
バスでお越しの方

J R・山陽電鉄姫路駅北側より**神姫バス9番・10番乗り場**（西高前行き、田寺北口行き、書写山ロープウェイ行き、大池台行き）乗車 「県立大環境人間学部」降車（乗車10分程度）

タクシーでお越しの方【重要】

中央改札を出て（お城側）、『近距離タクシー乗り場』が便利です（乗車10分程度）。行き先を「**新在家**の環境人間学部」とはっきり教えてください。（「兵庫県立大学」だけを行き先として伝えると間違って工学部（書写）などに行く場合がありますので、充分ご注意ください。）

兵庫県立大学 姫路環境人間キャンパス配置図



兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

ホームページ <http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1丁目1番12号

TEL (079) 292-1513 (学務課直通)

FAX (079) 292-1530